



令和 6 年 3 月 6 日

令和 5 年度第 4 回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を開催 － 米中対立下のアジアのサプライチェーンとベトナムに関する講演会を実施しました －

(一社)日本物流団体連合会は、3 月 1 日(金)、令和 5 年度第 4 回「海外物流戦略ワーキングチーム会合」を千代田区の全日通霞が関ビルで開催しました。この会合は、物流事業の海外展開に関する課題を官民連携で検討するもので、会員企業や国土交通省から 39 名が参加しました（内 11 名が Web 参加）。

令和 5 年度のワーキングチームでは、物流業界のグローバル化を進める上で重要な「ベトナムの物流事情」について調査を行っています。

第一部の講演会では、専修大学商学部教授の池部亮氏を講師としてお招きし、「米中対立下のアジアのサプライチェーンとベトナム」と題しご講演いただきました。講演会にはワーキングチームメンバー以外にも多数聴講いただき、Web 参加を含めて合計 73 名が参加しました。

講演は、はじめに、米国の地域別輸入シェアの推移について、中国からの輸入が減少している事、及び ASEAN におけるベトナムのシェアが増加している事を、品目別特性やデータの数値を用いて詳しく説明されました。

続いて、米中間における輸出入構造の変化について触れ、中国の人件費高騰に伴う生産移管先としてベトナムが好まれる理由を説明され、今後継続して同国の産業構造及び輸出構造の高度化が進むことを解説されました。

最後に、ベトナムと中国やロシア等との国家関係や同国の立ち位置を説明され、日本の企業はベトナムへの生産集中の継続は、新たなリスクが生まれる事に警戒し注意が必要であると締めくくり、講演は終了しました。

第二部のワーキングチーム会合では、国土交通省物流・自動車局国際物流室 課長補佐の古田氏から「最近の国土交通省の国際物流政策の取り組みについて」説明がありました。具体的には、今年度の物流政策勉強会及びコールドチェーンワークショップの開催報告とフィリピンにおける実証輸送の結果報告など、取り組みの状況を報告いただきました。

続いて、事務局からベトナム物流事情実態調査報告書の内容について説明をし、来年度の調査対象国をインドとする事等の方針案を提案しました。これに対しメンバーから調査に対する具体的要望の発言があり、事務局がそれらに対処する旨を確認したうえで方針案は承認されました。

最後に事務連絡を行い、今年度最後の会合は終了しました。

今後も物流連は、会員企業の海外展開に資する取り組みを実施してまいります。

【講演された専修大学 池部亮氏】



【最近の取組を発表される国土交通省 古田真敏氏】



【会合が開催された全日通霞が関ビル】



以上
事務局 嶋